

令和6年度 川内北中校区小中一貫教育

1 本市の小中一貫教育について

(1) 小中一貫教育の流れ

内閣府の小中一貫教育特区の認可を受けて平成18年度から3中学校区においてモデル的に小中一貫教育を進め、それらの成果を踏まえて平成21年度からは全中学校区で「連携型」の小中一貫教育を実践している。既存の小・中学校6・3制の枠組みに前期（小1～小4）、中期（小5～中1）、後期（中2、3）の4・3・2制の考え方を組み入れ、小・中学校の連携を強めている。また、毎年、2中学校区の小中一貫教育研究公開（5年に1回の輪番）を実施している。

(2) 昨今の流れ

令和3年度の小中一貫教育の方向性は、第5段階として令和2年度より学力向上（授業改善）を課題に取り組んでおり、中学校3年生をファイナルゴールと位置付けていたことに加え、小学校5年生をミドルゴールと位置付けた取組を進めている。また、令和4年度より国立教育政策研究所の推進する「魅力ある学校づくり」（令和5年度より「子どもの発達を支える生徒指導に関する調査研究」）にも取り組んでいる。

2 川内北中校区小中一貫教育について

川内北中学校を事務局校として、亀山小、可愛小、育英小の4校で小中一貫教育に取り組んでいる。

(1) 本校区の小中一貫教育の目標

9か年を通した社会を生き抜く力を備えた子どもの育成 ～市民憲章の理念を生かした教育の推進～		
前 期	中 期	後 期
小1～小4	小5～中1	中2～中3

【 市民憲章 】
やさしくすれば 心はかよう。
はなしをすれば、だれでもわかる。
考えさえすれば、みちはひらける。
やりさえすれば、必ずできる。

(2) ミドルゴールとファイナルゴール

ア ファイナルゴール（後期；中学3年生）

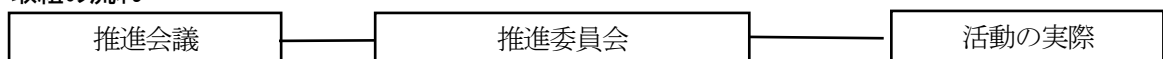
「自律した生徒」とは		
主体的に学び考え、正しく行動できる生徒	礼儀正しく思いやりがあり、進んで奉仕できる生徒	自ら鍛え、心身ともにたくましい生徒
- 目標を理解し、見通しを持って取り組み、わからないことが質問できる。 - 根拠や理由を明確にして表現することができる。 - 自分の生き方について学び、考えることができる。	- 元気の良いあいさつやマナーを身につけている。 - 望ましい人間関係づくりに努め、思いやりも持って協力できる。 - 奉仕する喜びを学び、責任感を培っている。	- 自他の命を守る行動をとることができる。 - 最後までやり遂げる気力や体力を培っている。 - 自己管理をすることができ、規則正しい生活を送ることができる。

イ ミドルゴール（中期；小学5年生）

「確かな学力と思いやりの心をもった心身ともにたくましい児童」とは		
確かな学力を身に付けた児童（主体的・対話的な学び合い）	思いやりの心・奉仕の心を身に付けた児童（道徳教育・人権教育）	たくましい体を身に付けた児童（運動習慣・規則正しい生活習慣）
- 課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる。自分の考えを深めたり、広げたりするために友達と話し合うことができる。 - 今後の成長の土台となる様々な体験的な活動を行い、意思や感情を深めることができる。	- 礼儀正しい行動ができる。（挨拶・返事・言葉遣い） - 相手の気持ちや立場を理解して思いやり、仲良く協力することができる。	- 心身の健康に気を付け、運動する習慣を身に付け、元気に生活することができる。 - 基本的な生活習慣を身に付けることができる。（早寝早起き朝ごはん）

(3) 具体的な取組

ア 取組の流れ



※ 参加者：各校の校長

※ 各校の教頭、教務、推進委員

イ 活動内容

(7) 教職員の交流

合同研修会	第1回川内北中、第2回亀山小、第3回可愛小の年3回実施する。
交流授業	教科によっては、中学校の定期テストの期間等に交流授業を行う。
中1授業参観	旧小6年担任が中1の授業を参観し、情報交換する。
小6授業参観	中学校教員が小6の授業を参観し、情報交換する。
小中連絡会	年度末の中学校入学前に、小中間で情報交換を行う。

(4) 児童・生徒の交流

3・3クリーン作戦	中3が各小学校区に分かれ、小3と美化活動や交流を行う。
部活動見学会	夏休みに小学6年生が希望する部活動を中学校で見学する。
陸上教室	放課後、北中陸上部員・顧問が講師として小学生を指導する。
1日体験入学	3小学校6年生が北中を訪問し、施設見学や小小交流をする。
2525手紙交流	中2と小5が手紙を通し交流する。
入学説明会	3小の6年生と保護者を対象に、川内北中で実施する。
3小合同元気塾	節目を迎えた小4が合同で講演会を実施する。(中2は独自に)
つなぎ課題	小6卒業の春休み、中学校から学習課題を提供し、取り組ませる。

(7) PTAの交流

4校PTA情報交換会	情報交換や意見交換を通し、4校PTAの連携を推進する。
------------	-----------------------------

(4) 取組の経緯・方向性

令和四年度	テーマ	「魅力ある学校づくり」へ向けた取組の充実 ～居場所づくりと絆づくりを通して～
	重点	○ 魅力ある学級経営による不登校対策 ○ 魅力ある授業づくりによる学力向上 ○ 共通実践事項の推進
	成果	国立政策研究所の推進する「魅力ある学校づくり」について、指標となる観点や取組のポイント等、理解を深めることができた。また、その実践を進めることにより、小中間のつなぎの重要性を再確認できた。
	課題	年間を通して行った「居場所づくり」「絆づくり」を精査し、各学校の実態に即した取組を、PDCAサイクルを通して実施していく必要がある。
令和五年度	テーマ	生徒指導提要に基づいた魅力ある学校づくりの推進 ～居場所づくり・絆づくり・キャリア教育～
	重点	○ 生徒指導提要の理解と実践 ○ 魅力ある学年・学級づくり ○ 魅力ある授業づくり
	成果	授業の終末や学校行事ごとに振り返りをしたことによって、児童生徒の自己肯定感や自己有用感の高まりを、教師が感じ取ることができた。また、「みんなで何かをするのは楽しい」と感じた児童生徒の割合が増加し、新規の不登校児童・生徒数が減少した。
	課題	生徒指導提要の4つの視点で、今までの取組を見直し、深めていく必要がある。振り返りの活用方法については、改善の余地がある。

(5) 本年度のテーマと重点

テーマ	生徒指導提要に基づいた魅力ある学校づくりの充実 ～居場所づくり・絆づくり・キャリア教育～
重点	○ 教科指導と生徒指導を一体化させた授業づくり ※ ①自己存在感の感受、②共感的な人間関係の育成、③自己決定の場の提供、④安心・安全な風土の醸成を具現化する授業づくり ※ 「わがとも」を生かした振り返りの充実と共通実践事項の推進 ○ 「みんなで何かするのは楽しい」を生かした学級・学年の集団づくり ※ 日常における居場所づくり、絆づくりを意識した生徒支援 ※ 児童生徒の声を生かした行事等の運営・充実 ○ キャリア教育と関連した生徒指導の推進 ※ 教育活動における目標設定と振り返り活動による自己有用感の育成 ※ キャリアパスポートの充実と学年づくりの引継ぎシートの活用

3 令和6年度の計画

月	日	曜	推進委員会	合同研修会	交流活動等
4	10	水	第1回校区推進会議(北中)		
	24	水	第1回校区推進委員会(北中)		
	30	火		第1回合同研修会 (北中)	
5	11	土			3・3 クリーン作戦(各小学校)
	28	火		中1年授業参観(旧小6担)	
6	8	土			4校PTA情報交換会(育英)
	18	火	第2回校区推進会議(亀山)		
7	10	水	第2回校区推進委員会(亀山)		
8	1	火		第2回合同研修会(亀山)	
	22・23	木・金			部活動見学会(北中)
10	25	金			小学生一日体験入学(北中)
	31	木			陸上教室(各小学校)
11	26	火	第3回校区推進会議(可愛)		
12	3	火	第3回校区推進委員会(可愛)		
	11	水			小4元気塾(3小連携)
					2525手紙交流(各小)
1	7	火		第3回合同研修会(可愛)	
	17	金			2525手紙交流(北中)
	22	水			入学説明会(北中：可愛)
	23	木			入学説明会(北中：亀山・育英)
2	8	土			中2元気塾
	26	水	第4回校区推進会議(北中)		
	28	金		小6授業参観(可愛小)	
3	6	木		小6授業参観(亀山小)	
	7	金		小6授業参観(育英小)	
	13	木	第4回校区推進委員会(北中)		
	14	金			つなぎ課題(各小学校へ)
	26	水		小中連絡会(北中)	

※ 教科・領域等の共通実践事項や、生徒にかかわる臨時の情報交換は、年間を通し随時行う。

4 薩摩川内市小中一貫研究公開のサイクル

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中学校区	東郷学園 里中	平成中 樋脇中 川内北中	水引中 祁答院中	川内中央中 海星中	川内南中 入来中

※ 5年に1回研究公開を行う。次回の川内北中学校区は、令和10年度の予定。

5 共通実践事項

教科領域	重点目標	共 通 実 践			交流授業等	その他
		前 期	中 期	後 期		
国語	語彙力を高める指導の工夫	語彙力を高める掲示物の工夫 ことばのたからばこ(小学校)、語彙一覧表(中学校)の活用 漢字の書き順を再度おさえる。			研究公開等あれば、情報共有や参観する。	
社会	資料活用能力を高める授業を積極的に行う。 教科書にある資料をていねいに読み取る。	本時のまとめを自分の言葉で書けるようにする。(3年生以上)学年に応じて日本地図や歴史年表を掲示する。(教室でなくても廊下や学年の掲示でもよい。) クイック Q&A (授業始めの3分間の振り返り) 歴史(時代の主な出来事の要因や原因の理解) 地理(地域で有名なものを覚える)				ロイロノートを活用する。
算数 数学	基礎的な知識・技能の定着を図る。	授業中に具体物の活用、操作等を行う。(低学年) 授業中に具体物を絵や図に表す。(中学年) 週末の宿題で、学年の重点課題を行う。 小学校の内に指を使わないで足し算、引き算する。 12×2 、 $24 \div 2$ など暗算できるようにする(中学校では100問計算)	理論を学ばせる。(学び合う時間の確保を図る) 毎時間、授業導入時に学年の重点課題問題を解く。	スモールティチャーの活用(問題の難易度で額数形態を工夫 低:ペア 中:グループ 高:フリー) 教師の手立ての工夫		基礎学力や全国学調対策(w e b 問題や過去問の活用) 文章の読み取り課題
理科	文章を正しく読み取り、分析し、理解する力をつける。	用語の理解 教科書に線を引く(文章に線を引き、大事な文言は○で囲む) ※ 各種テストでも実践 文章を分析する力、イメージする力をつける。 ※ 文章の内容を(後期:別の形で簡単に表現させ、)グラフや図と関連させて考えられるように示す。				ワークシートや課題の共有化や情報交換(Teams の活用) 理科で学習することの良さに気付かせる(日常生活との関連)
外国語	主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童・生徒の育成を図る。 全期を通して共通で簡単な英語を使う。	中期の指導方法の見直し(音声を中心とした指導)	後期の指導方法の見直し(書くことを中心とした指導)	11月実施予定 可愛小(5・6年) 5年:小メイン 6年:中メイン 授業反省は全体で		英語の指導計画を今後見直す→Teams に掲載
音楽	児童生徒が主体的に音楽活動に取り組み、発達段階に応じて互いに高め合える学習形態を工夫する。	曲想を体全体で感じながら、体の力を抜いて、のどをしっかりと開けて歌う。	歌詞の意味を理解し、無理ない歌声で歌う。	楽曲の構成を理解し、多様な音楽表現を考えながら歌う。	R 6 : 亀山小 R 7 : 育英小	マスクを付けないと歌えない子供の増加 手指消毒の緩和 マスク着用による声量の低下の問題

教科領域	重点目標	共通実践			交流授業等	その他
		前期	中期	後期		
音楽	児童生徒が主体的に音楽活動に取り組み、発達段階に応じて互いに高め合える学習形態を工夫する。	曲想を体全体で感じながら、体の力を抜いて、のどをしっかりと開けて歌う。	歌詞の意味を理解し、無理ない歌声で歌う。	楽曲の構成を理解し、多様な音楽表現を考えながら歌う。	R 6 : 亀山小 R 7 : 育英小	マスクを付けないと歌えない子供の増加 手指消毒の緩和 マスク着用による声量の低下の問題
図工美術	自分の思いに向き合い、活動を楽しみながら主体的に作品づくり等に取り組む児童生徒の育成	活動計画を示すなど、児童生徒が主体的に取り組み、表現できる工夫 鑑賞活動などでのタブレットの活用			小中交流 2 年サイクル R5～6 育英小 R7～8 可愛小	色の組み合わせ、筆の使い方、構図、表情 ロイロノートを活用して、友達の作品を見せ合う。
体育保健	発達段階に応じた、体力の向上を図る。	聞く姿勢を統一（へそを向けて、だまって話を聞く。） 体力向上を図る。 教師の礼を待ってから始める。	体力テストの分析と活用。（第 2 回の研修会で集約・体力テストで 2 項目以上、県平均を上回る。） 授業の躰（聞く姿勢・集団行動・授業のはじめの挨拶等）	体力テストで 4 項目以上、県平均を上回る。（サーキットの継続。整理運動時に、静的なストレッチをする。） リーダーを育成しながら、子供たちが主体的にできるようにする。	中学校の授業参観は事前に連絡を入れる。 小学校が行う場合、中学校へ周知する。	ラジオ体操は中学生では第 2 を行う。小学校は学校の実態に応じて行う。
生活技／家	自分の生活や身近な環境に問題意識をもち、学習したことを生かしてよりよい生活を築こうとする実践的態度を育てる。	(技) 可能であれば、各教科でスクラッチを利用して学習する。	(家) 長期休業中に家庭での実践を促す課題に取り組ませる。(夏・冬の課題) (技) 可能であれば、各教科でスクラッチを利用して学習する。	(家) タブレットの活用により、実習時間を確保する。 (技) タイピング能力の向上・スクラッチを使ってプログラミング(フローチャートなどアナログも可)	必要があれば、技能面の研修(ミシンの使い方など) 学習で使えるような資料や共通実践できそうな学習活動等あれば随時 Teams で知らせる。	裁縫道具が家庭に 1 個しかない所もあるので、小中で時期をずらせないか。 学校応援団、支援員の活用の依頼 制作するエプロンの柄は考慮して選ぶ(中学校で使用)
生活指導	SNS、インターネットの利用に関する保護者への啓発を行い、家庭でのルールを決める。 子どもにきまりを意識させ、オア地着いた環境づくりに努める。 登下校や廊下歩行に気を付けさせる。(小)	基本的な使い方やルールを知る。 きまりを知って守れるようにする。	ルールや約束事を決めてしっかりと守る。 中学校を意識した学校生活を送る。	ネットモラルに反しない使い方を身に付ける。		中学校の校則の変更(靴下は無地の白か黒) 頭髪や制服については検討中

教科 領域	重点目標	共 通 実 践			交流授業等	その他
		前 期			中 期	後 期
不 登 校 対 策	発達段階に 応じたコミュ ニケーション 能力の育成	学校楽しーとの活用 ミーティングシートの活用				中学校では保 健室登校ではな く、別室等で対 応している。
			体験入学の小小交 流はゆとりのある活 動とする。 乗り入れ授業の 実施。			
学 習 指 導	中 1 ギャッ プを解消する 学習指導の充 実	時計を見て行動 する。	1 分前着席 チャイム黙想			タブレットの 置き場所と筆 箱の中身の検 討
			5 分前行動			
特 別 支 援 教 育	9 日年間を 見通した適切 な就学指導	障害種に応じてその時期に応じた就学指導を進める。			小 6 授業参観、 情報交換会	わくわく交流 会、年 2 回実施。 R 6：可愛小 可愛、育英、亀 山の順
			中学校入学に際 し、児童・保護者の 願いや意思確認を 行い、障害種に応 じた修学指導を進 める。	上級学校進学や 将来を見通しなが ら、障害種や時期 に応じた就学指導 を進める。		
安 全 指 導	廊下歩行の 徹底 通学路のマ ナーを守る。	はさみ（走らな い・騒がない・右側 を歩く）を守る。	下級生の手本と なる行動をする。	通学路のマナー を守る。		
情 報 教 育	ロイロの活 用を図る。 情報モラル 教育を通年で 行う。	情報モラル教育を行う。				県域アカウン トはキャリアパ スポートに挟ん で中学校へ持ち 上がる。 タブレットを 自分流にカスタ マイズ(ホーム 画面、カーソル の変更)するの を禁止する。 話を聞くとき は、タブレット を半閉じる。
		フリック入力や ローマ字入力がで きる。	タイピングがで きる。 基本的な操作 (ロイロノートの 活用)ができる。	思考ツールを使 って考えることが できる。 写真や動画を使 って表現物を作成 できる。		
保 健 指 導	カードを使 って基本的生 活習慣の育成 「早寝早起き 朝ごはん」を図 る。	規則正しい生活 リズムの習慣化を 図る。	規則正しい生活 リズムを確立す る。	他律から自律へ		